

## レディーミクストコンクリート配合報告書

No. \_\_\_\_\_

平成 年 月 日

殿

日本工業規格表示認証工場  
 製造会社名：株式会社 菅野建材  
 工場名：庄和生コン  
 TEL 048-746-8776 (代)  
 配合計画者名 菅野 英記

工事名称					
所在地					
納入予定期	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日				
本配合の適用期間					
コンクリートの打込み箇所					

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー	粗骨材の最大寸法	セメントの種類による記号
	普通	27	cm	mm	N
指定事項	セメントの種類	呼び方欄に記載	空気量	%	
	骨材の種類	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>	
	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	コンクリートの温度	°C	
	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	A	水セメント比の上限値	%	
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	単位水量の上限値	kg/m <sup>3</sup>	
	水の区分	使用材料欄に記載	単位セメント量の下限値又は上限値	kg/m <sup>3</sup>	
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	流動化後のスランプ増大量	cm	
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下			
	呼び強度を保証する材齢	日			

## 使用材料

セメント	生産者名	住友大阪セメント株式会社	密度 g/cm <sup>3</sup>	3.15	Na <sub>2</sub> O eq %	0.64
混和材①	製品名		密度 g/cm <sup>3</sup>		Na <sub>2</sub> O eq %	
混和材②		種類				

骨材No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>
細①	碎砂	栃木県佐野市仙波町	A モルタルバー法	5 以下	3.00	2.65 2.69
骨②	砂	茨城県稲敷市浮島	A 化学法	5 以下	2.10	2.52 2.58
材③						
粗①	碎石	栃木県佐野市閑馬町(2005)	A モルタルバー法	20 ~ 5	61.0	2.65
骨②						
材③						
材④						

混和剤①	ポゾリス 15S	種類	AE減水剤(標準形I種)	Na <sub>2</sub> O eq %	1.6
混和剤②	製品名				
混和剤③					

細骨材の塩化物量	② 0.001 %	水の区分	上澄水 地下水
----------	-----------	------	---------

セメント	混和材	水	配合表 kg/m <sup>3</sup>				混和剤	
			①	②	③	④		
311		167	592	243		994		3.11
水セメント比		53.7 %	水結合材比		%	細骨材率		45.6 %
備考			骨材混合比 (容積混合)	細骨材①:②		70.0:30.0		

## コンクリート中のアルカリ総量計算書

配合の設計条件											
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプ <sup>°</sup> フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号						
	普通	27	10	20	N						
指定事項	セメントの種類	呼び方欄に記載		空気量	%						
	骨材の種類	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>						
	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載		コンクリートの温度	℃						
	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	A		水セメント比の上限値	%						
	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		単位水量の上限値	kg/m <sup>3</sup>						
	水の区分	使用材料欄に記載		単位水量の下限値又は上限値	kg/m <sup>3</sup>						
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		流動化後のスランプ増大量	cm						
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下									
	呼び強度を保証する材齢	日									
配合表 kg/m <sup>3</sup>											
セメント	混和材		細骨材	粗骨材		混合剤					
	①	②		①	②	③	④	①	②	③	
311			167	592	243		994			3.11	

### アルカリ総量の計算表

アルカリ総量の計算		判定基準	計算及び判定
コンクリート中のセメントに含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ) Rc Rc=(単位セメント量kg/m <sup>3</sup> ) × (セメント中の全アルカリ量Na <sub>2</sub> O eq:%/100)	①=Rc 1.990	—	Rc = 311×0.64/100=1.990
コンクリート中の混和材に含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ) Ra Ra=(単位混和材量kg/m <sup>3</sup> ) × (混和材中の全アルカリ量:%/100)	②=Ra	—	
コンクリート中の骨材に含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ) Rs Rs=(単位骨材量kg/m <sup>3</sup> ) × 0.53 × (骨材中のNaClの量:%/100)	③=Rs 0.001	—	Rs1 = 592×0.53×/100=0.000 Rs2 = 243×0.53×0.001/100=0.001 Rs=Rs1+Rs2=0.001
コンクリート中の混和剤に含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ) Rm Rm=(単位混和剤量kg/m <sup>3</sup> ) × (混和剤中の全アルカリ量:%/100)	④=Rm 0.050	—	Rm=3.11×1.6/100=0.050
流動化剤を添加する場合は、 コンクリート中の流動化剤に含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ) Rp Rp=(単位流動化剤量kg/m <sup>3</sup> ) × (流動化剤中の全アルカリ量:%/100)	⑤=Rp	—	
コンクリート中のアルカリ総量(kg/m <sup>3</sup> ) Rt Rt=①+②+③+④+⑤	Rt 2.041	3.0 kg/m <sup>3</sup> 以下	適
備考			

備考